

令和3年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全学年どの観点においても目標値、全国平均を上回っている。領域別に見ると、学年によってばらつきがある。「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化による事項」に関しては目標値より下回っている学年もある。
社会	全学年どの観点においても目標値、全国平均を上回っている。「主体的に学習に取り組む態度」においてがどの学年も10ポイント程度上回っている。また、どの領域においても、目標値、全国平均を上回っている。
算数	どの学年もだいたい観点においても目標値、全国平均を上回っているが、低学年の「思考・判断・表現」が目標値と同程度になっている。また、どの領域においても、目標値、全国平均を上回っている。
理科	4年生はどの観点も目標値、全国平均を上回っているが、5年生、6年生は目標値と同程度である。領域別に見ると、下回っている領域はないものの、「物質・エネルギー」も「生命・地球」も目標値と同程度になっている。

本校の教育目標
○豊かな心の子ども
○考える子ども
○努力する子ども
◎健康な子ども

本校が児童に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律と家庭学習習慣の確立 ○言語能力(言葉を使いこなす力)の向上 ○基礎・基本を定着させ、分からないままにしないこと。 ○思考力の向上 ○主体的に学習する意欲と態度

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ①学びの基礎となる力の確立 ②語彙力を鍛える ③基礎・基本の定着を図る指導の徹底 ④主体的に学ぶ力の育成

校内における学力向上推進体制
<ul style="list-style-type: none"> ○学習の約束「いなだスタンダード」の徹底 ○家庭で学習する習慣付け ○体験を言葉に表す活動の工夫 ○読書活動の習慣化 ○「自分の思いや考えをもつ→まとめる→伝える」活動の工夫 ○正しく丁寧な文字を書く ○個に応じた指導の工夫(フォローアップ教室、繰り返しドリル学習の重視、ベーシックドリルにおける弱点分野のプリント) ○算数少数指導(実施できれば) ○相互作用のある対話的な学びの実践 ○体験学習、校外学習等の有効活用 ○オンライン一斉学習のスキルを身につけさせる

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・下位層児童への個別指導の工夫と十分な時間の確保を行う。 ・パワーアップ講師、学習ボランティアを活用し、個に応じた指導を充実させ、漢字・計算技能習熟の定着を図る。 ・学習の見直しをもたせ、授業の終末に振り返りをする。 ・ペア活動や小グループの対話的活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を徹底する。 ・家庭学習定着のための全校統一的な取り組みを実施する。 ・読書月間を全学年で行い、語彙力を高める活動を行う。 ・すべての教科で言語活動の充実を図る。 ・個に応じた指導法の工夫・改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを「心豊かな稲田っ子を育てる道徳科教育～なりたい自分の姿を見つめる発問や振り返りの工夫～」に設定し、道徳科を通して豊かな心を育てる。 ・「他者の多様な思いに触れながら、道徳的価値を自分事として考えれば、なりたい自分の姿を見つめることにつながるだろう」という研究仮説を検証する授業研究を全学年1本ずつ行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点を明確にする。 ・個人の記録をとり、努力や成果・変容などを把握する。 ・評価から個に対しての適切な支援をする。 ・児童自身が自己評価(学習の振り返り)をすることで、自分の努力に対する成果と今後の課題に気付かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業時にアンケートをとり、改善に役立てる。 ・保護者会や学年便り等で指導方針を伝え、理解と協力を求める。 ・保護者会や連絡帳で保護者の思いや願いを受け止める。 ・外部人材を活用した授業を充実させることで児童の興味・関心を高める。